

令和5年度 児童朝会56 講話

令和5年12月4日【特別編】

おはようございます。校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？

今日は特別に全市公開研究授業についてお話をします。

まず、みなさんに訊きたいのが「学校って何をするとところでしょうか？」という質問です。そう、お勉強をするところですね。では、次の質問。「なぜ勉強をしないといけないのでしょうか？」少し周りの人と聞き合ってみてください。いろいろな考えがあるかと思いますが、今日は少し時間がないので、次にいきます。みなさんには、どんな「夢」がありますか？いろいろありますよね。もちろんまだ決まっていない人もいますかと思えます。全然かまいません。それでは最後の質問。学校の主人公、中心になる人は誰でしょう？先生でも教育委員会でなく、みなさん、子どもです。意外ですか？皆さん、子どもこそ学校の主人公なのです。子どもがいるから、そこに校舎がで、先生がよばれて学校が開かれるのです。

こう考えてきますと、校長先生は、学校は勉強するところでもあります。同時に主人公である皆さんの夢を叶える準備をしていくところ、あるいは皆さんの夢をさがすお手伝いをするところと考えています。

そこで、皆さんの色々な夢を叶えるために、勉強は

- 1 先生にさせられる
- 2 自分から進んでする

どちらが夢に近づけるのでしょうか？そうですね。もちろん進んで勉強する方が良いですね。

先週木曜日、全市公開研究授業が行われました。他の学校から多くの先生が見に来られました。



そこで、授業が終わってから、色々な先生に「子どもたちが、よくがんばっていますね。」とたくさんほめられましたので、お伝えしておきます。

外部の先生方から「どうしたら、あんなにがんばれる子どもたちになるのですか？」「なぜ、こどもたちは、あんなに助け合って学んでいるのですか？」などの質問を受けました。

さて、他の学校の先生たちは、大隅西小学校の何を見にきているのでしょうか？

ここから、午前中に行われた、全部のクラスの授業の様子、皆さんがつながって、夢中になって学びに取り組んでいる姿をみてみましょう。いかがですか。どのクラスもすごくがんばっていましたね。

そして、5時間目に行われた4年1組の国語の授業は、外部指導者の先生に「全国レベルの授業です！」「全ての

子どもが、互いに支え合いながら学んでいる。」と大いに褒められました。これって、そんなにすごいことなのでしょうか？



学校を監督している文部科学省は今から4年前に勉強の方法を変えましょうと指示を出しました。今までの勉強方法では、知識は身に付きますが、子どもが夢をみたり、夢をさがしたりするのは難しいのではないかということがわかってきました。そこで、これからは子どもが自ら学ぶ、お友だちと聞き合いながら学びを深めていく授業にしましょうと変わってきました。

全ての子どもが「ああ、学校で学べてよかった」「夢に近づけそう」と思える授業にするために、今までと授業方法を変えようとなったのです。

ただし、授業のやり方を変えるのは、容易ではありません。校長先生も今から20年近く前に、この考えに出会って、自分の授業を変えようとしたことが、長年かかりました。でも、大隅西小の先生方は、ものすごくがんばって、子ども中心の授業をつくろうとがんばり、わずか半年ほどでここまで変わってきました。このような授業は他の

学校ではあまり見られないので、皆さん大隅西小に見に来られるのです。



この画像を見てください。入学してまだ半年少しの1年生ですが、自分から進んで、また助け合って学んでいますね。



こちらは6年生の様子ですが、楽しそうに、さらに友だちと対話しながら学んでいますね。素晴らしいことです。

すごく褒められたからと言って、油断してはいけません。子どもが中心になって学ぶということはよく考えてみましょう。もちろん、大隅西小の先生たちは、そうなるように全力で支えますので安心してください。たとえば、皆さんが学びやすくなるように、授業の道具を工夫したり、皆さんのがんばり具合などをメモして、自分の授業の

振り返りなどを行っています。

それでは今週のお題です。途中でもお話しましたが、みなさんの「夢」は何ですか。また良かったら、校長室前のボードに書いてくださいね。

今日も最後まで聞いていただきありがとうございました。